

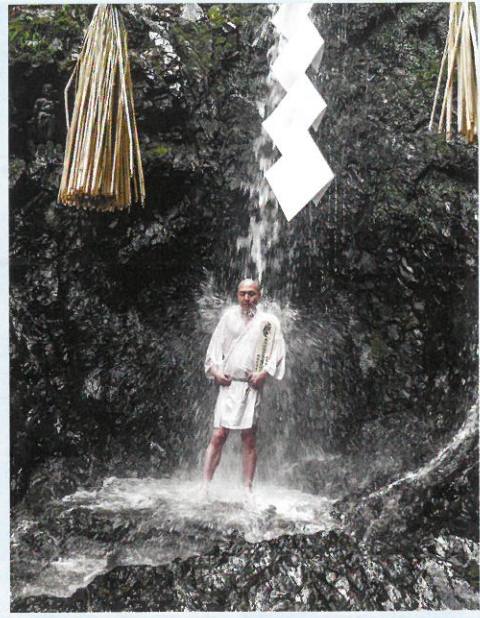
高尾山報

令和7年5月号



皆の^{まなざし}眼差して見守る子供達のすこやかな未来

高尾山春季大祭奉修 四月二十日(日)



琵琶滝(左)と蛇滝(右)で滝行の安全を祈願する

早朝に季節外れの雪が降り、高尾山蛇滝・琵琶滝の両道場において、一年間の修行安全を祈願する開瀑式が執り行われました。

開瀑式厳修

四月二日(火)

金武観音寺(高野山真言宗)を建立したと記されています。沖繩の歴史書『球陽』(二七四三〜四五)には、次のような話も載せられています。

首里(現在の那覇市)から浦添(現在の浦添市)までの間は、木々が鬱蒼と茂る高い峰があり、昔、ここには妖怪が多く棲みつき、時々出没しては人を驚かし誑かすなどの悪さをしていました。夕暮れになると人々は恐れ、その道を通ることはありませんでした。

その頃、日秀上人という僧侶がいました。その様子を気の毒に思うと、「金剛經」というお経を小石に写してこの地に埋め、礎石を建てて妖怪を鎮圧したのでした。

礎石には「金剛嶺」の三字が記されていました。妖怪が現れることはなくなり、安心して通行できるようになったそうです。

(球陽)

日秀には、この他にも弥陀・薬師・観音の三尊像を作った護国寺(那覇市・高野山真言宗)に安置したという事跡など、さまざまな伝説が残されています。沖繩の地に真言密教の教えを根づかせた方と言えるでしょう。

なお、この護国寺は沖繩における真言宗第一の巨刹と称され、鹿児島坊津一乗院から琉球に渡った頼重(？〜一三八四)という僧侶によって開山された寺院と伝わっています。坊津一乗院については昨年(二〇二四)の十月号「法の水茎」(一四八)でも触れましたが、鹿児島大乗院・大興寺、坊津一乗院は鹿児島における真言宗の三本山と言われ、とりわけ鹿児島最大の密教寺院であった大乗院の末寺は琉球国にまで及んでいます。ことが分かっています。

戦国期には、琉球の僧侶が鹿児島に渡り、お経の書写活動を行っていた記録も見え、そこから活発な相互交流が行われていたことが分かります。

ていたのでしょうか。種子島や屋久島といった種子屋久地方も視野に入れた僧侶の往来にも思いを馳せます。

今回取り上げた日秀については、清の徐葆光(一六七〇〜一七三三)が著した琉球の地誌『中山伝信録』の中に、日秀を語った「民謡」が書き留められています。

神人來ル
富蔵水清シ
神人遊フ
白沙米ニ化ス

(『中山伝信録』)
(神人が来て富蔵(富花)の海岸は水がさらに清らかとなった。神人がそこで遊ぶと白砂は米に変わった。日秀はお大師さまのように農業土木事業にも長けていたのでしょうか。人々から「神人」(神のよう)に氣高い人)と慕われた日秀の施行(布施行)によって、沖繩の地は「仏法有縁の勝地」(仏さまが住まう霊地)ともなっていたのです。

(栃木北部教区普濟寺)

法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(155)

庭を見渡せば藤に芍薬、牡丹にツツジなどの花々が咲き誇り、空を見上げれば心地良い風に吹かれながら鳥たちが元気に飛び回っている。田植えが終わった早苗田にはやわらかな陽光が反射して、喜びに満ちあふれた力エルの大合唱も聞こえてきます。毎年訪れる初夏の瑞々しい風景です。

勝地はもとより定まれる主なし
おほむね山は山を愛する人に属す
(白居易『白氏文集』)
(景色の良い土地は、もともと持ち主は決まっています。山を愛する人にとって、山は愛する人の持ち物なのです)

この漢詩に見られるように、命あふれる光景はもとより誰の所有物でもありません。鎌倉時代前期の文人・鴨長明(一一五五?〜一二二六)は、『方丈記』の中でこの句を引用し、「勝地は主なければ、心をなぐさむるにさはりなし」(景色に持ち主はいないので、心を慰めるに何の妨げもない)と語りました。ただただ大なる自然の懐に抱かれていて感じたとき、心はやがて穏やかに鎮まってくるでしょう。

長明のように、晴れた日には野山の散策も良いものでしょう。時には向かいの山々に向かつて、お腹の底から「ヤッホー」と呼びかければ、もしかすると同じように応えてくれるかもしれません。「山彦」という言葉は、もともと「山の神」を意味します。自らを解き放つて風光を愛せば、きつ

とたくさん「木霊」に出会えることでしょう。「山彦」をめぐるのは、弘法大師空海(七七四〜八三五)が詠んだとされる歌が伝わっています。

手のうちに
有りけるものを
山びこの
こたふるかたを
尋ねけるかな
(『弘法大師全集』)
(心の中にあるというのに、山彦の応えるほうを探し求めてしまおうよ)

この和歌には、歌の前に「心外求仏法心」(心の外に仏法を求むる心を)という詞書が付されています。これによれば、お大師さまは、仏さまの悟りの教えは山彦が返ってくるような遠い場所にあるのではなく、実は身近な「心の中」(手のうち)に存在していることを説かれていたようです。似たような言葉に「心外無別法」(すべてには自分の心から出たもので、別にあるものではない)という仏教語もあります。

新緑の山野に分け入りながら、心の奥底に隠れている清らかなで美しい仏さまの心も探さずしてはいかからうか。さて先月号では、日本列島を北上する桜前線とともに北海道に伝わるお大師さまの信仰について書いてみました。今月は、南端の沖繩に目を向けてみたいと思います。

お大師さまの教えを沖繩に伝えられたお一人に、戦国時代の真言僧侶、日秀(一五〇三〜一五七七)という方がいらつしやいます。伝によれば、加賀国(現在の石川県、一説では上野国(現在の群馬県)に生まれ、高野山で修行の後に、はるか南方にあるという観音様の



田植えを終えた早苗田に訪れる爽やかな初夏の風景

浄土(補陀落)に往生しようとする紀州(現在の和歌山県)より舟を漕ぎ出し、琉球に漂着したそうです。琉球王国の王府が編纂させた最初の地誌『琉球国由来記』によれば、日秀を乗せた舟は、金武の富花(現在の沖繩県国頭郡金武町の富花)の海岸に辿り着き、その地を補陀落山(観音菩薩の浄土)の霊地として



稚児装束に身を固めた可愛らしいお稚児さん達



万国和平・万民豊楽を熱禱する佐藤貫首



氷川神社獅子舞保存会による
厄払いの奉納獅子舞



八王子市の姉妹都市である苫小牧市より訪れた
「風の会」と献上ホッキ貝を運ぶボーイスカウトの皆様



絹太鼓保存会による奉納太鼓



地元の浅川中学校吹奏楽部による演奏

桜舞う中で未来へ紡ぐ稚児の行列 春季大祭奉修

四月二十日(日)



すこ 健やかな成長を願い誕生仏に甘茶を灌ぐ

子供たちの健やかな成長を願う「高尾山春季大祭」が盛大に奉修されました。
パレードは山麓から始まり、佐藤貫首をはじめとする山内の僧侶や山伏達が高尾山慶賛会の皆様、北海道苫小牧市から訪れた「苫小牧風の会」、ボーイスカウト・ガールスカウト、そして浅川中学校吹奏楽部と共に表参道を練り歩きました。行列はケーブルカー清滝駅まで続きました。
その後、二行は山上の十二目茶屋にて、華やかな衣装に身を包んだお稚児さん、八王子消防記念会、高尾山御詠歌講、氷川神社獅子舞保存会の皆様と合流しました。
総勢四百人を超える荘厳な稚児練行となり、道中では絹太鼓保存会による力強い奉納太鼓、八王子消防記念会による華麗な梯子乗りの歓迎もありました。その後、薬王院の大本堂にて子供たちの健やかな成長と無事を願い、御護摩修行が執り行われました。



有喜苑での柴燈大護摩供



八王子消防記念会による
勇壮な梯子乗り



大本堂内で御詠歌奉詠

観音菩薩の宗教

89

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪観音（その27）

平安時代中期、貴族の女性たちは流麗な和文で優れた作品を残してきた。日本人なら古文の授業で一度は触れる紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』は、その代表である。こつした「インテリ」女性たちは、時に親兄弟の許しを必要としたとはいえ、積極的に居室を離れて寺院や神社に詣でたり籠ることができた。その代表的寺院が如意輪観音を本尊とする石山寺であった。来号以降、平安女性の自立性や文化的素養の背景のひとつに仏教の平等思想があったことを論じていく予定であるが、今号ではいったん菩薩論から離れ、戦後の日本で流布した日本女性の地位の低さを述べたアメリカ人女性の所見を見、その反証を示したい。

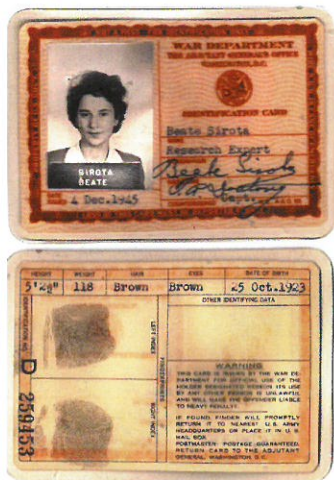
占領軍に通訳として随行した二二歳の女性ベアテ・シロタ・ゴードン (Beate Sirota Gordon 1923-2012) が皮相的に観察した戦後の日本人の姿は、平安期貴族女性の自立や知性とは大いに異なるものであった (岡磨紀子訳『1945年のクリスマス―日本国憲法に「男女平等」を書いた女性の自伝』朝日文庫、二〇一六年)。彼女によれば、日本では「アマテラスは女性の神様で大変な権力を持っていたし」、「古代には何人かの女帝が」おり、平安時代でも「紫式部という才能豊かな女性」がいたが、

「武士階級が幕府を開くころから女性の立場はひどく下落」したとされた (同書、一八六頁)。論証抜きの彼女の大胆な結論は、鎌倉時代の北条政子の「大変な権力」や、『十六夜日記』の著者・阿仏尼のごとき「才能豊かな女性」、江戸期の明正天皇や後桜町天皇という「女帝」を挙げるだけでも充分な反証となる。

彼女自身の言葉によれば、彼女は憲法に関して「ハイス쿨の社会科で習った程度の知識しかない」にも拘らず、GHQのロウスト中佐 (Beatrice Ross) に「あなたは女性だから、女性の権利を書いたらどうですか?」と言われ、「飛び上がるほど嬉しかった」。さらに彼女が「教育の自由についても書きたいのです」と言うと、「いいですよ」と中佐はにこやかに頷いた。ベアテはその後、日比谷図書館や東大図書館などを巡り「まったく試験を明日に

控えた付け焼き刃の勉強」をして、人権に役立ちそうな箇所を抜き書きしてメモをつくったと述べている (同書、一七五―一七八頁)。筆者は戦後の女性に法的平等が与えられたことを評価するに吝かではないが、彼女の無知と偏見に満ちた日本女性の観察には疑義を呈したい。

五歳から十五歳まで日本で育ったユダヤ人である彼女が「日本の女性が幸せになるには、何が一番大事かを考えた」とするのは純粋な正義感だったかも知れぬ。しかしながら、彼女の脳裏に「赤ん坊を背負った女性、男性の後をうつむき加減に歩く女性、親の決めた相



ベアテ・シロタのGHQのIDカード (http://www.shinyawatanabe.net/atomicssunshine/BeateSirotaGordon/photo-gallery)

手と渋々お見合いをさせられる娘さんの姿が、次々と浮かんで消えた」とするのは、あまりに皮相で一方的な観察である。また、彼女が「付け焼き刃の勉強」をした際、「ワイマール憲法とソビエト憲法は私を夢中にさせた」とあるように、マルクス主義的世界観に大きな影響を受けていたことも、彼女の男女平等観に作用したであろう (同書、一七九―一八〇頁)。そのことは、「二九一八年に制定されたソビエトの憲法は、(中略) 社会主義が目指すあらゆる理想が組み込まれていた」 (同書、一八〇頁) と述べていることから窺知できる。やがて民政局や彼女の急

ごしえの作業の結果、わずか六日で『日本国憲法』が完成し、第14条に男女平等が定められた。こうした民政局の作業を漏らした者は「極刑に処す」とされるほど秘密裏に行われたものであった (同書、一七九頁)。

一方、日本に男女平等の法を公布させたアメリカでは、保守派の女性憲法学者のフィリス・シュラフリー (Phyllis McAlpin Stewart Schaffly 1924-2016) の『Stop ERA運動』もあつて、バイデン政権下に至るまで『アメリカ合衆国憲法』に男女平等を入れることは否決され続けている。ERAとは Equal Rights Amendment の略で、男女平等憲法修正条項のことをいう。反対の理由としては、家庭における女性の役割や母性保護が否定されるとか、女性も徴兵の対象となること、女子スポーツや性別トイレ・シャワーが撤廃されることなどが挙げられている。シュ

ラフリーのスローガンは、「伝統的女性らしやの何が悪い (What's wrong with traditional womanhood?)」であり、アメリカ女性はずでに特権的地位にあつて修正は不要とするものである (Phyllis Schaffly, What's Wrong with 'Equal Rights' for Women? https://awpc.cattcenter.iastate.edu/2016/02/02/whats-wrong-with-equal-rights-for-women-1972/)。

ただし私見を述べれば、アメリカでは働く者に家計を握る権限があり、社会進出していなかった時代の女性は男性に経済的に依存する以外なく、「地位」は低かった。1950年代のホーム・コメディ『アイ・ラブ・ルーシー (I Love Lucy)』などでは、デパートで夫に妻が甘えるように「ねえ、ダーリン、これ買って」「私、これ欲しいの」とおねだりするシーンが頻出する。『アイ・ラブ・ルーシー』シーズン3の第2話『The girls

go into business』(1953年10月12日放映 https://ultimateiavelucy.fandom.com/wiki/The_Girls_Go_into_Business) では、妻のルーシーが新しいドレスを買ったことを夫に隠すため、数ヶ月間クローゼットにしまっ (No, it's been hanging in the closet for months)」と作り話をするシーンがある。妻の強弁の原因は、稼ぎ手の夫が家計を握っているからである。そうした状況に不満な妻や女性たちが社会進出を主張し、女性解放運動に邁進したのは理に適っている。他方、家庭外で働かずとも家庭経済を握れた日本女性から女性解放運動が起きなかつたのは当然である。女性の地位は、何を基準とするかによって正反対の評価が出ることを理解せねばならない。

日本女性が家庭における経済を管理していたことは、明治憲法や旧民法下においてすら見ることができ。それは日本女性の発言力や夫に対する「事実上」の優越性を示すものである。法制度上は家父長たる男性の女性に対する優位を定めつつも、実際の家庭生活では戦前も女性が家計を管理するのが普通であった。このことについてはベアテ・シロタすら認め、「家庭の中では夫の財布を握っているけれど、法律的には、財産権もない日本の女性」と述べている (前掲書、一八二頁)。

古典落語を見れば、当時の女性の家庭における発言力が知られる。例えば、『芝浜』では借金を返すために妻は夫を怒鳴りつけて働かせ、『紙入れ』では夫の金の使い道を妻が把握していることが語られる。古今亭志ん生、志ん朝父子の名演で知られる『火焔太鼓』では、しつかり者の妻が家内経済を握っていることが面白おかしく咄される。筆者は大学の講義で『芝浜』の夫婦の会話を英語にし、両者の関係や性別がわからぬように夫を person A、妻を person B として留学生に聞かせたことがある。その上で二人の上下関係を尋ねると、全員がBすなわち妻を上位と答えた。朝早くAはBに叩き起こされ仕事に出されるのだから、当然の判断であろう。

また、戦前の雑誌『婦人倶楽部』(講談社、1925年1月号など) では家計簿のつけ方や節約術が特集され、妻が家庭経済の責任者であることが示された。現代のキャリア官僚の中で大蔵省・財務省が最大の権力を持つのは、彼らが財布を握っているからである。これは家庭においても同様で、家計を握る女性が時に夫以上の力を持っていたのは自明であろう。それは、「男性の後をうつむき加減に歩く女性」とする観察が、一面的で主観的であることの反証でもある。



遙拝社にて高尾山を訪れる皆様の安全をお祈りしました



満開の桜の中で柴燈護摩供が厳修された

本年も木々の芽吹きを楽しむ恒例の「若葉まつり」が四月十二日から五月十八日にかけて行われます。これに先立ち、開催の無事と高尾山へ訪れる方々の安全を願う、「来山者安全祈願祭」が執り行われました。

満開の桜の下で、高尾山商店会の皆様や三越伊勢丹立川支店の関係者によるお練り、飯縄権現遙拝社御宝前にて佐藤貫首導師のもと、高尾山へ訪れる方々の安全を祈る法楽をささげられました。その後、ケーブルカー清滝駅前では柴燈護摩供を厳修し、登山者の安全と共に、お山へ参拝に訪れる皆様の諸願成就を祈念致しました。

高尾山若葉まつり 高尾山登山者安全祈願祭厳修

四月五日(土)



星野家三代の句碑の前に
当山貫首と玉藻の会員の皆様

俳人の星野高士先生（俳誌『玉藻』主宰）が、御息女で俳人の愛先生、玉藻の会員の方と共に恒例の「三代句碑建立記念法楽会」のため来山されました。この句碑は広庭の天狗像脇に、明治時代の俳人・高浜虚子の次女である星野立子先生と椿先生、高士先生の親子三代に渡って建立されており、法楽会の後には句会が開かれ、参加の皆様は自然などをモチーフに句を詠まれ、佐藤貫首も次の三句をしたためられました。

ひと枝に 心ゆかしや 紅しだれ
春光 経朗々と 句碑祈願
石楠花や 僧一列に 下駄の音

三代句碑建立記念法楽会

四月十四日(月)



駐日タイ王国ウィッチュ大使(右)をお迎えして
仏舎利奉戴九十五年をお祝い致しました



誕生仏に甘茶を灌ぐボーイスカウト団員

四月六日、日本ボーイスカウト東京連盟八王子地区各団が高尾山上有喜苑仏舎利塔広場に参集し、お釈迦様の生誕を祝す花まつりが当山貫首導師のもと盛大に開催されました。高尾山仏舎利塔には昭和六年（一九三二）日本ボーイスカウト連盟の前身である少年団日本連盟が「健児の仏舎利」としてタイ王室より拝受した釈尊真身骨が安置されており、本年は仏舎利奉戴から九十五年を迎えるにあたり、駐日タイ王国大使のウィッチュ・ウェチャーチー閣下の御参列を賜り、日タイ両国の更なる友好親善をご祈念申し上げます。

四月八日には同仏舎利塔に於いて釈尊降誕会法要が当山貫首導師により厳修され、参列する多くの御信徒が春の花で飾られた花見堂に祀る誕生仏に甘茶を灌ぎお釈迦様の誕生をお祝い致しました。

花まつり（釈尊降誕会）

四月六日(日)・八日(火)

当山貫首講演

川崎市ロータリークラブ 四クラブ合同研修セミナー

四月十八日(金)

ホテルARUKSP内の「KSPホール」に於いて、川崎市内で活動する川崎鷺沼ロータリークラブ、川崎西ロータリークラブ、川崎高津ロータリークラブ、川崎高津南ロータリークラブの四団体合同主催で研修セミナーが行われて佐藤貫首が講師を務め、日本遺産にちなんだ高尾山の歴史や地理、修験道について、自身の修行経験を交えながら講演されました。



高尾山年代記

65

明治大学博物館 外山 徹

十九世秀観4 秀観代拾遺

高尾山一九世山主秀観は、文政二年（二八一九）の就任時、すでに齡五〇の坂を越えていたとも考えられ、在任期間は決して長くなかったが、管見のエピソードを拾ってみよう。

紀州家中屋敷の地鎮祭

秀観が山主に就任した文政二年も押し詰まった頃、祈禱所を勤めていた紀伊徳川家中屋敷の地鎮祭を執行している。紀州家の中屋敷は赤坂にあったが（現在の赤坂離宮の場所）、前年の八月二二日に火災が発生、本殿が焼失していた。十二月の一二・一四日の両日は使僧が廻町の上屋敷（千代田区紀尾井町）を訪れ準備にあたっているが、祭

場には三間と二間（畳二枚分の広さ）の仮屋が作られ、三尺二寸（メートル弱）四方の護摩壇がしつらえられていた。取り揃えた法具・什物の記録には、二尺八寸五分（約八六センチ）の燈台四本、供物、香、数々の修法具が書き上げられており、大名屋敷の地鎮祭ともなると大がかりである。

翌一五日、秀観は伴僧として門末の蓮乗院・金泉寺・真福寺住職、僧一名をとめない、五ツ時（午前八時半過ぎ頃）から地鎮の修法を執行した。執行後は上屋敷に招かれ食事の饗応を受け、秀観は白銀七枚、伴僧も別途祈禱料を拝領している。赤坂の中屋敷は寛政四年



左（西側）の広い敷地が中屋敷 中央の葵紋が上屋敷 分間江戸大絵図（天保8年・1837）部分 国立国会図書館デジタルコレクション

（二七九二）に類焼し、文化八年（二八二二）には本殿が焼失。同一年七月に再建されたばかりだったが、わずか五年の後に再び焼け落ちてしまった。度重なる火災の後、地鎮祭が秀観に委ねられたのは、高尾山の火伏の効験が期待されたのかもしれない。

この時、地鎮祭執行を差配した村松郷右衛門は、寛政九年（二七九七）の祈禱所再興の折に交渉の窓口となった人物であり、この後、文政四年の新宿太宗寺出開帳においても奥女中を参詣させるなど、紀州家との間には、単に

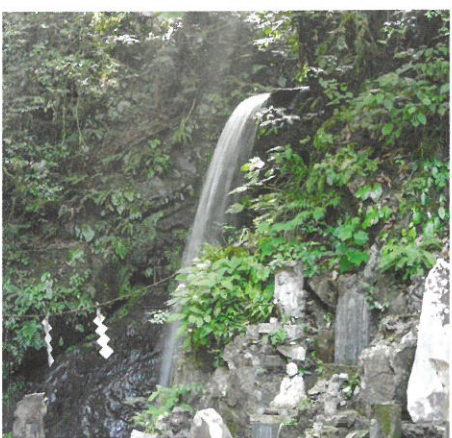
御札を届けるばかりではない、良好な関係が築かれていたことがわかる。

琵琶滝参籠者の遭難

文政六年（二八二三）の八月一七日。西暦では九月二日にあたる時分は台風のシーズンである。その夜、高尾山は激しい風雨に見舞われていた。夜半、琵琶沢川（前沢川）がにわかに増水し、琵琶滝の脇にあった行者堂を押し流してしまった。堂内には二四名の者が心願成就のため参籠していた。辛くも難を逃れた二七歳の若者ともう一人年齢不詳の男性が薬王院に急を報せた。当時、現在の四天王門の前と琵琶滝を結ぶ道があったとは言え、雨中の暗闇の中よくたどり着いたものである。

薬王院文書には、この後の対応についての記事が残っている。「存命の者ども当山へあい知らせせうろうにつき、驚き入り、村役人方へもあい達し、早速人足大勢差し出しあ

い助けべき」と、直ちに最寄り村の村役人に通報し、村人が搜索・救助のため繰り出したが、「流末川端へまかり出でそうらえども、夜中の儀、ことと大水にて自力に及び難く」と、川岸までは出てみたものの夜間で目視が効かない上、水勢すさまじく、いかんともし難かった。この夜の出来事は、近隣の村の旧家の日記にも「この夜大洪水高尾山びわ滝より川流し十三人有り」と記され、また、八王子千人同心組頭にして知識人として知



今日の琵琶滝 参籠堂を押し流す鉄砲水があったとはにわかに信じ難い

られる塩野適斎も『桑都日記』に「琵琶滝、溢溢し溺死者十一人」と記録するなど、衝撃的な事件として周辺の人々にも受け止められた。薬王院では参籠者の名前を取り調べ、在住の村々へ遭難を報せる飛脚を立てた。参籠者は二〇代から六〇代にわたる二四名。内生存者は前述の二名。遺体が親族に引き渡されたが、一名は遠く八王子横山村で発見されたというので、浅川をそのまま現在の八王子駅北口市街地の北側まで押し

流されたことになる。水流の激しさが実感されるが、その後の流末の搜索にもかかわらず、ついに五名の遺体は未発見となった。武蔵国荏原郡下沼部村（東京都大田区）と久良岐郡本牧村（神奈川県横浜

て三人は、遠路ゆえに遺体の引き取りが難しく、高尾山で茶毘に付すよう依頼があった。

薬王院文書には、所在村の親類による遺体引き取りの請書が残っているが、一通一通包紙に差出人の名が記され、大切に保存されてきたことがわかる。供養の意味があったのだろうか。琵琶滝は高さ三メートル半の小さな滝で、普段の水流からは想像のつかないことだが、江戸後期には下部では約一メートル二〇センチの幅があったと言うので、現在に比べて流量がかなり多かった可能性もある。当時の絵画史料を見ても、水量の豊富な様子がわかる。

秀観の隠居

ところで、琵琶滝の事故について所管の幕府代官所へ宛てた同年九月付の書面には、秀観の代理として徳泉が署名をしている。事故発生を村役人とともに代官所へ出向い

て届け出る必要があったが、秀観が出頭しなかったことを咎められたことに對し、理由として病気を挙げている。琵琶滝一件の以前からすでに不調であったか、その衝撃の程が影響したか、秀観の心痛の程は察するに余りある。結局、秀観は十一月一八日に隠居。翌日、岳純が二〇世山主に就任することになる。

寛政元年（二七八九）「出家人別帳」に上村田村真福寺（八王子市狭間町）の看主（看住とも表記される住職の代理者）として記された秀観がその人ならば、文政二年には数え五一歳となる。

薬王院の届書によると参籠者は一四名で内二人が存命、死者・行方不明者が一二名である。

本書は「日記」という書名ながら編纂された年代記であり、適斎にとつて後代に書き残すべき印象的な事件であったのだろう。同書には、「こ

れ（行者堂）に居る者、あるいは崖樹にすがりて逃れ去る者あり、あるいは山神の余光に頼りて逃れ去らざる者十一人、居然として溺死す」と、現場の状況について、薬王院文書にはない生々しい描写がある。薬王院に急を告げた二名は危険を察して堂から逃れた者たちで、二名が神の加護を祈つてその場を動かなかったというのは、彼らの証言なのだろう。薬王院文書による死者・行方不明者の数は二二人であり、書中の人数は行者堂内に留まった人の数とすれば、逃れる途中で落命した者も一名あったという解釈になるか。あるいは不明者として後日判明した者があつたのだろうか。『参考文獻』山本正夫訳『桑都日記』正編（鈴木龍二記念刊行会、一九七三）

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜、読みやすく原文に手を加えています。

日程表	
一日目	二日目
10:00 高尾山麓不動院 集合・受付	2:45 起床
10:30 開会式	3:30 出立
11:00 昼食	3:40 神変堂法楽
11:30 出立	3:45 回峰行
12:00 滝行	4:45 山頂法楽
14:00 回峰行	5:30 朝勤行
16:30 かしき谷にて法楽	6:00 朝作務
17:00 坊入	7:00 朝食
17:30 入浴	8:00 諸堂参拝
18:30 夕食	9:45 法話
20:00 就寝	10:45 昼食
	11:45 柴燈大護摩
	13:30 閉会式 高尾山麓不動院
	14:00 解散

【信徒峰中修行会】を、六月七日から八日にかけて開催致します。

高尾山に広がる大自然を道場として、高尾山御本尊・飯縄大権現様に身を任せ、古来より伝承される修行を実践し、激動の現代社会に生きるご自身の心の波を静めてみませんか。

滝行や夜明け前に行われる回峰行、また講習会や有喜苑での柴燈大護摩供等を実践いたします。

但し、舗装されていない暗い山道を一定のペースで歩きますので、体力に自信のある方のみ御参加下さい。

集合時間は厳守となります。遅刻の場合には対応致しかねますので、その旨ご了承下さい。

※当日の天候や状況等によって行程変更や中止となる場合がございます。

※申込締切後、詳細を示した要項をお送りします。

第二百二十四回 信徒峰中修行会

六月七日(土)～八日(日)

申込締切 五月二十七日(火)

参加費 二万五千元
*保険料含

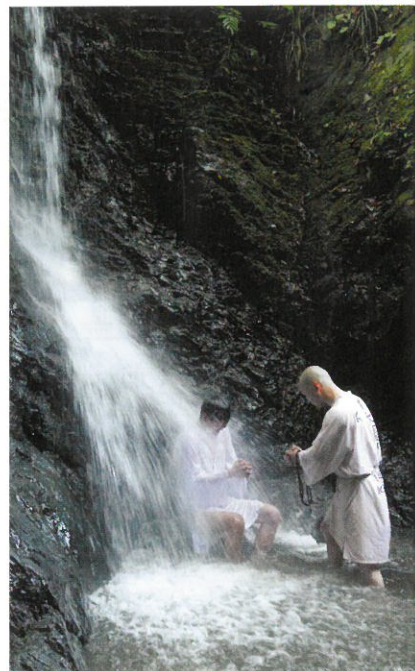
定員 四十人
*二十歳以上
定員となり次第締め切ります。ホームページでご確認下さい。

集合 高尾山麓不動院

服装 運動着
運動靴
(登山靴可)

持参品 ヘッドライト
弁当
(初日昼食分)
軽食
(二日目未明分)
雨具
(カッパ・ポンチョ)
洗面用具、タオル
寝間着、筆記用具
リュックサック

*お持ちの方は、念珠や錫杖をご持参下さい。



お申し込みについて

左記のいずれかの方法でお申し込み下さい。

① ハガキに必要事項(郵便番号・住所・氏名とふりがな・年齢・性別・生年月日・当日連絡のつく携帯電話番号・緊急連絡先(電話番号・名前・続柄)・アドレス)の有り無を明記してお送り下さい。

② QRコードからお申し込み下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利用下さい。ご相談のある方は時間内(九時～十六時迄)に信徒峰中修行会係までご連絡下さい。



人事異動(四月二十二日付)

企画調整室室長 山本 憲佳

信徒課長 桑澤 俊宏

いけばなの心 ⑥2

華道教授 佐藤 宗明

今回は、牡丹を花材とした作品をご紹介します。

牡丹は中国原産の植物で、原産地の中国では「花王」と称され、百花の王として古くから讃えられてきました。日本には平安時代に、遣唐使によって薬用植物としてもたらされたと伝えられて



花材：牡丹

を作品の下方に、まだ蕾の花を上方に配することで、牡丹がもつ包容力と穏やかな美しさを表現しております。作品全体の重厚な印象に調和するよう、花器には大籠を用いています。

なお、牡丹とよく比較される草木に芍薬があります。芍薬は、牡丹に比べてすなりとした茎の先に花を咲かせるのが特徴です。また、冬には地上部が枯れることから、その違いを見分けることができます。

高尾山中興開山六五〇年記念
京都巡拝のお知らせ

本年令和七年は高尾山中興開山六五〇年に正当する節目の年です。

この勝縁にあたり高尾山薬王院では、当山貫首佐藤秀仁大先達のもと、真言宗総本山東寺、総本山智積院、総本山醍醐寺、大本山狸谷山不動院への巡拝を開催いたします。

日程 令和七年九月十七日(水)～十九日(金)

募集期間 令和七年六月中旬～七月中旬

※詳細は高尾山報六月号及び当山ホームページにて発表いたします。

百観音霊場巡礼 (36)

厚木市 荒井 一雄

夏遊六波羅蜜寺
空也和尚菩薩行
佛教興起清盛平
諸行無常六體佛
平家興衰鋭眼睛

上人の
口ゆ「南無阿弥陀仏」の声
暗き宝庫にひびきわたるも
夏、六波羅蜜寺に遊ぶ
空也上人は開山し菩薩行を…
仏法興隆は平清盛公も…
諸行無常、六体化物…
平家の栄枯盛衰を
清盛公の鋭き眼は睨む…



登山だより

六月行事日程

一日〜七日

聖天秘供(聖天堂)

五日、十七日、二十九日

弁天秘供

七日

神変祭

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

七日〜八日

信徒峰中修行会

九日、二十四日

御詠歌勉強会(十時不動院)

十九日

納札供養柴燈大護摩供

(十三時祈祷殿広場)

二十八日

奥の院開扉供養

(十時奥之院)

月例写経会

(十三時山麓不動院)

二十九日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯縄大権

現様の日々の御加護に感謝

し、沢山の御供物を捧げて

御本尊様威光倍増の為、御

供養申し上げる法要です。

皆様の御志納を受け付

けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し出

下さい。

尚、法要終了後に百味の

お札を授与致します。

毎月二十二日午前九時勤修

御志納金 一〇三三円以上

高尾山の昆虫

ツマキチヨウ

187

桜の開花前後に発生するギフチヨウは、春の女神と呼ばれ親しまれています。かつては高尾山でも見られましたが、絶滅してしま残念です。

早春の同じ頃にツマキチヨウ(棲黄蝶)が出現し、その可憐な姿からギフチヨウに代る春の女神、あるいは春の使者と称されます。年に一回春に発生する蝶で、シロチヨウ科に分類されモンシロチヨウよりもやや小型です。

特徴的なのはオスの前翅の先端がオレンジ色に近い黄色であることから、ツマキチヨウの和名が付いていますが、メスはオスと異なり白色をしています。そして本種の優雅さが伝わるのが翅の裏側で、翅を閉じた時に表われる後翅にある高級感のある斑紋が一際気品を醸し出しています。

蝶の仲間には年に数回発生を繰り返す種が少なくありませんが、本種は春に産み付けられた卵が幼虫を経て短期間で蛹になり、そのままの状態でのその年の夏、秋、冬の三シーズンを乗り越えて翌春に可憐な姿になって出現します。文字どおり春の使者であり、新たな春の妖精という表現も過言ではないと思います。

(文松島 孝 撮影上村 雅昭)



高尾山報助成金志納者御芳名(順不同・敬称略)

小平市 池田 順子
大田区 川岸 宣之
さいたま市 水岡 健二
大田区 金子 慎太郎
武蔵村山市 川島 しず子
北区 鈴木 あい子
八王子市 串田 展子
前橋市 佐藤 源韶
八王子市 小池 まり子
熊谷市 丸山 進
中野区 中野十七夜講社
八王子市 鈴木 長一
高尾山健康登山者一同

高尾山薬王院ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>
下記のQRコードから高尾山薬王院のホームページにアクセスできます



発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山 秀康
編集人 菅井 倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円